

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 3 月 1 日

事業所名 児童発達支援事業所 きらり玉島

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|------------------------------------|--|----|-----|-------------------------------|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | | ○ | | 建物の構造上、階段等バリアフリー化にできないところもある。将来的には、事業所移転も考慮している。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、必要な職員が参画している | ○ | | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の配布物やホームページ等で公開している | ○ | | 結果を個別に配布したり、ホームページに公開している。 | |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | ○ | | | |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | | |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | | | | 実態に合ったアセスメントツールの見直しを行っている。 |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 固定化しないよう他事業所の物を参考にしている。 | |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | | ○ | | それぞれの利用目的を考え、長期の場合は、余暇活動も視野に入れて検討していきたい。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | | |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | | タブレットを活用し、支援の改善につながるような記録を取るようになる。 |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | ○ | | | | |
| | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 担当制にし、ケース会議で検討した結果をもって参画している。 | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、等)、連絡調整(トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | | 情報共有については、トラブル時の連絡によるものが多い。今後は、継続した連絡の取れる関係づくりを行いたい。 |
| | 22 | (医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合)子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | | | 現在受け入れはないが、実施する場合は、関係機関との体制づくりを構築していく |

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 | |
|--------------|---|--|-----|---------|--|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | | |
| | 24 | (当該事業所の放課後等デイサービスを終了し、他の放課後等デイサービス事業所等へ移行する場合) それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | 18歳までの受け入れは行っていないが、現在の受け入れ状況(2年生まで)に応じた情報提供は実施している | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 今年度は、コロナ禍の為、今までのような参加の機会がなかったが、今後は参加条件に応じた形式で参加するようにしたい。 | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、他の小学校の子どもと活動する機会がある | | ○ | | 今後、時期や参加条件に応じて活動の機会を持つようにしていきたい。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | | ○ | | コロナ禍のため、今年度は実施されていないが、実施されることになれば、参加していく。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 1対1で、直接お伝えしている。 | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | | |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | 2年生以降の方については、メールを通じて申し出て頂けるよう働きかけを行っている。 | |
| | 32 | 保護者参加の会を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | | 今年度は、コロナ禍により実施の機会がなかったが、できるようになったら、連携の支援を強化していきたい。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | | |
| | 34 | 定期的に会報(事業所通信、法人の会報)ホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | 行事や、イベントごとにホームページの更新をこまめに行っている。 | |
| | 35 | 個人情報の取り扱いに十分注意している | ○ | | | 児発のアンケートにあった、状況を伝える時に、他の方についての話が聞こえる、との指摘に対して、同じように個別の場所で実施することで、プライバシーを確保していく。 |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | ○ | | 法人内の他事業所で作られている物品を、行事の時に配布する等して関係づくりをしていく。 |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | 定期的に事業所内研修を行い、意識の向上に努めている。 | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、該当する場合は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | | 現在受け入れは行っていないが、組織的に身体拘束に関する決定事項があり、いつでも対処できる体制はとれている。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、職員が周知している | ○ | | | |
| 43 | ヒヤリハット、事故、等の発生処理報告書を作成、事業所内で共有し、再発防止に役立っている | ○ | | | | |